

株式取扱規程

第1章 総則

(目的)

第1条 当会社の株式に関する取扱い及び株主の権利の行使方法については、定款の規定に基づき本規程によるほか、法令並びに株式会社証券保管振替機構（以下「機構」という。）がその振替業務に関し定めた規則及び振替業務の業務処理の方法及び口座管理機関の定め（以下「機構等の規則等」という。）による。

(株主名簿管理人)

第2条 当会社の株主名簿管理人及び同事務取扱場所は、次のとおりとする。

株主名簿管理人

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所

東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

第2章 株主名簿への記録等

(株主名簿への記録)

第3条 株主名簿記載事項の変更は、総株主通知等機構からの通知（社債、株式等の振替に関する法律（以下「振替法」という。）第154条第3項に規定された通知（以下「個別株主通知」という。）を除く。）により行うものとする。

2. 前項のほか、新株式発行その他法令に定める場合は、機構からの通知によらず株主名簿記載事項の変更を行うものとする。

3. 株主名簿は、機構が指定する文字・記号により記録するものとする。

(株主名簿記載事項に係る届出)

第4条 株主は、その氏名又は名称及び住所を機構等の規則等に定められた方法により、口座管理機関及び機構を通じて届け出るものとする。変更があった場合も同様とする。

(法人株主の代表者)

第5条 法人である株主は、その代表者1名を機構等の規則等に定められた方法により、口座管理機関及び機構を通じて届け出るものとする。変更があった場合も同様とする。

(共有株主の代表者)

第6条 株式を共有する株主は、その代表者1名を定め、共有代表者の氏名又は名称及び住所を機構等の規則等に定められた方法により、口座管理機関及び機構を通じて届け出るものとする。変更があった場合も同様とする。

(法定代理人)

第7条 株主の親権者及び後見人等の法定代理人は、その氏名又は名称及び住所を機構等の規則等に定められた方法により、口座管理機関及び機構を通じて届け出るものとする。変更及び解除があった場合も同様とする。

(外国居住株主等の通知を受けるべき場所の届出)

第8条 外国に居住する株主及び登録株式質権者又はそれらの法定代理人は、日本国内に常任代理人を選任するか、又は日本国内において通知を受けるべき場所を定め、常任代理人の氏名もしくは名称及び住所又は通知を受けるべき場所を、機構等の規則等に定められた方法により、口座管理機関及び機構を通じて届け出るものとする。変更及び解除があった場合も同様とする。

(機構経由の確認方法)

第9条 当会社に対する株主からの届出が口座管理機関及び機構を通じて提出された場合は、株主本人からの届出とみなす。

第3章 株主確認と株主権行使の手続き

(株主確認)

- 第10条 株主（個別株主通知を行った株主を含む。）が請求その他株主権行使（以下「請求等」という。）をする場合、当該請求等を本人が行ったことを証するもの（以下「証明資料等」という。）を添付し、又は提供するものとする。ただし、当会社において本人からの請求等であることが確認できる場合はこの限りでない。
2. 当会社に対する株主からの請求等が、口座管理機関及び機構を通じてなされた場合は、株主本人からの請求等とみなし、証明資料等は要しない。
 3. 代理人により請求等をする場合は、前2項の手続きのほか、株主が署名又は記名押印した委任状を添付するものとする。委任状には、受任者の氏名又は名称及び住所の記載を要するものとする。
 4. 代理人についても第1項及び第2項を準用する。

(書面交付請求及び異議申述)

第 11 条 会社法第 325 条の 5 第 1 項に規定された株主総会参考書類等の電子提供措置事項を記載した書面の交付の請求（以下「書面交付請求」という。）及び同条第 5 項に規定された異議の申述をするときは、書面により行うものとする。ただし、書面交付請求を口座管理機関及び機構を通じてする場合は、機構等の規則等が定めるところによるものとする。

（少数株主権等）

第 12 条 振替法第 147 条第 4 項に規定された少数株主権等を当会社に対して直接行使するときは、個別株主通知の申出をしたうえ、署名又は記名押印した書面により行うものとする。この場合、当会社は、株主に対して、個別株主通知の申出を受付けた口座管理機関の発行する受付票の提出を求めることができる。

（株主提案議案の株主総会参考書類記載）

第 13 条 株主総会の議案が株主の提出によるものである場合、会社法施行規則第 93 条第 1 項により当会社が定める分量は、次のとおりとする。

（１）提案の理由

各議案ごとに 400 字

（２）提案する議案が役員選任議案の場合における株主総会参考書類に記載すべき事項

各候補者ごとに 400 字

2. 株主から提出された株主総会の議案について、前項各号に定める字数を超えるときは、会社法施行規則第 93 条第 1 項により概要を記載することができる。

第 4 章 単元未満株式の買取請求の取扱い

（単元未満株式の買取請求の方法）

第 14 条 単元未満株式の買取請求をするときは、機構の定めるところにより、口座管理機関及び機構を通じて行うものとする。

（買取価格の決定）

第 15 条 前条の買取請求の買取単価は、買取請求が株主名簿管理人事務取扱場所に到達した日の東京証券取引所の開設する市場における最終価格とする。ただし、その日に売買取引がないとき又はその日が同取引所の休業日に当たるときは、その後最初になされた売買取引の成立価格とする。

2. 前項による買取単価に買取請求株式数を乗じた額をもって買取価格とする。

（買取代金の支払）

第 16 条 当社は、前条により算出された買取価格から第 25 条に定める手数料を控除した金額を買取代金とし、当社が別途定めた場合を除き、機構の定めるところにより買取単価が決定した日の翌日から起算して 4 営業日目に支払うものとする。ただし、買取価格が剰余金の配当又は株式の分割等の権利付価格であるときは、基準日までに買取代金を支払うものとする。

2. 買取請求者は、その指定する銀行預金口座への振込又はゆうちょ銀行現金払による買取代金の支払を請求することができる。

(買取株式の移転)

第 17 条 買取請求を受けた単元未満株式は、前条による買取代金の支払又は支払手続を完了した日に当社の振替口座に振替えるものとする。

第 5 章 単元未満株式の買増請求の取扱い

(単元未満株式の買増請求の方法)

第 18 条 単元未満株式を有する株主が、その有する単元未満株式の数と併せて単元株式数となる数の株式を売り渡すことを請求（以下「買増請求」という。）するときは、機構の定めるところにより、口座管理機関及び機構を通じて行うものとする。

(自己株式の残高を超える買増請求)

第 19 条 同一日になされたもので先後不明な買増請求の合計株式数が、当社の保有する譲渡すべき自己株式数を超えているときは、その日におけるすべての買増請求は、その効力を生じないものとする。

(買増請求の効力発生日)

第 20 条 買増請求の効力は、買増請求が株主名簿管理人事務取扱場所に到達した日に生じるものとする。

(買増価格の決定)

第 21 条 買増単価は、買増請求の効力発生日の東京証券取引所の開設する市場における最終価格とする。ただし、その日に売買取引がないとき又はその日が同取引所の休業日に当たるときは、その後最初になされた売買取引の成立価格とする。

2. 前項による買増単価に買増請求株式数を乗じた額をもって買増価格とする。

(買増請求の受付停止期間)

第 22 条 当社は、毎年次に掲げる日から起算して 10 営業日前から当該日までの間、買増請求の受付を停止する。

- (1) 3月31日
- (2) 9月30日
- (3) その他機構が定める株主確定日等

2. 前項にかかわらず、当会社が必要と認めるときは、別に買増請求の受付停止期間を設けることができるものとする。

(買増株式の移転)

第23条 買増請求を受けた株式数に相当する自己株式は、機構の定めるところにより、買増請求をした株主が口座管理機関を通じて、買増代金として買増価格に第25条に定める手数料を加算した金額が当会社所定の銀行預金口座に振り込まれたことを確認した日に、買増請求をした株主の振替口座への振替を申請するものとする。

第6章 特別口座の特例

(特別口座の特例)

第24条 特別口座の開設を受けた株主の本人確認その他特別口座に係る取扱いについては、機構の定めるところによるほか、特別口座の口座管理機関が定めるところによるものとする。

第7章 手数料

(手数料)

第25条 第14条の単元未満株式買取請求及び第18条の単元未満株式買増請求に係る手数料は、以下のとおりとする。

記

手数料は、以下の算式により1単元当たりの金額を算定し、これを請求に係る単元未満株式の数で按分した金額とする。

(算式) 第15条の買取単価又は第21条の買増単価に1単元の株式数を乗じた合計額のうち

100万円以下の金額につき	1.150%
100万円超500万円以下の金額につき	0.900%
500万円超1,000万円以下の金額につき	0.700%

1,000 万円超 3,000 万円以下の金額につき 0.575%

3,000 万円超 5,000 万円以下の金額につき 0.375%

(円位未満の端数を生じた場合には切り捨てる。)

ただし、1 単元当たりの金額が 2,500 円に満たない場合には、2,500 円とする。

[制定]

昭和 45 年 5 月 19 日制定

[改訂]

昭和 57 年 10 月 1 日改訂

平成 3 年 2 月 8 日改訂

平成 4 年 1 月 21 日改訂

平成 11 年 10 月 1 日改訂

平成 12 年 5 月 8 日改訂

平成 13 年 10 月 1 日改訂

平成 14 年 6 月 4 日改訂

平成 15 年 4 月 1 日改訂

平成 15 年 6 月 27 日改訂

平成 16 年 5 月 11 日改訂

平成 17 年 6 月 29 日改訂

平成 18 年 5 月 1 日改訂

平成 20 年 10 月 1 日改訂

平成 21 年 1 月 5 日改訂

平成 24 年 4 月 1 日改訂

令和 4 年 9 月 1 日改訂

令和 7 年 3 月 25 日改訂